

2012年3月期 機関投資家・アナリスト向け電話会議 質疑応答要旨

日時 : 2012年5月15日 18:00~19:00

回答者 : 常務執行役員 経営企画部長 寺本秀雄

<2012年3月期業績>

Q1. 第一生命単体の第4四半期の3ヶ月の新契約高が前年同期比で増加した理由を教えてください。これは、2011年3月期第4四半期が、その直前に一時払終身保険の予定利率を下げたことによる販売減があったためという理解でよいのか？

A1. 新生涯設計戦略に基づきコンサルティング販売を進め、第三分野だけでなく死亡保障商品の販売を進めることで、死亡保障の主力商品である順風ライフの販売が増加したことが要因である。2011年3月期に一時払終身保険の予定利率を下げたことによる反動増ではない。

Q2. 資料24ページで、第一生命単体の基礎利益の変動要因に記載されている「その他」の内訳を教えてください。

A2. 基礎利益増加要因「その他」の96億円は、①2011年3月期に一時的に計上した震災に伴う支払備金の繰入を12年3月期には計上していないことによるプラス効果と、12年3月期に実際にお支払いした震災関連の保険金が予想を下回ったことによる支払備金戻入のプラス効果が合計で約400億円、②資産運用収支の悪化が約80億円、③残りが保険関係収益の悪化である。

<資産運用>

Q3. 保有債券のデュレーション長期化の取組みに関連して、2012年3月末時点の負債のデュレーションについて教えてください。また、運用環境が厳しく運用利回りに下押し圧力がある状況だと思うが、今後の運用方針について教えてください。

A3. 2012年3月末時点の負債のデュレーションは、17年の後半とこれまでお伝えしてきた水準から変わっていない。資産のデュレーション長期化の取組みについては、2012年3月期は20年債を中心に責任準備金対応債券を1.4兆円積み増した。今年度は、金利水準にもよるが2兆円程度の積み増しを行う予定。これにより、デュレーションのミスマッチを縮め経済価値ベースでの耐久力を増すとともに、一定程度リターンの改善も図れると考えている。

<第一フロンティア生命>

Q4. 第一フロンティア生命の2013年3月期業績予想を策定する上で前提とした日経平均株価の水準と危険準備金の繰入予定額を教えてください。

- A4. 日経平均株価の前提は約 10,000 円と 12 年3月末から概ね横ばいで設定している。また、今年度の危険準備金の繰入金額は 200 億円を想定している。
- Q5. 第一フロンティア生命の 2013 年 3 月期の純損失予想を 234 億円(当社持分考慮後)としているが、2012 年3月期の 257 億円(当社持分考慮後)からあまり改善しない計画になっている。今後、市場環境が横ばいでも、このように純損失が続いていくのか。**
- A5. 第一フロンティア生命の収支構造上、市場環境が横ばいの場合でも若干の最低保証に係る責任準備金繰入が生じる。第一フロンティア生命の最低保証付変額商品は預かり資産から維持費相当のフィーを控除するので、これにより減価した部分も最低保証の対象となる。このため、市場環境が横ばいであったとしても、「最低保証に係る責任準備金」の繰り入れが一定程度発生する。
- しかし、現在の第一フロンティア生命の商品ポートフォリオは定額年金へのシフトが進んでおり、最低保証に係る責任準備金繰り入れの負担は軽減してきている。加えて、預かり資産の増加により、黒字化に向けた道筋が見えてきていることもご理解いただきたい。2012 年 3 月末で預かり資産は約 1.7 兆円あり、今年度約 4,000 億の増加を見込んでおり、今年度末には 2 兆円を越える予想である。これが 2 兆円台後半になると単年度黒字が見通せるため、2015 年前後で黒字化すると考えている。
- Q6. 第一フロンティア生命において販売が増加している定額年金の収益率について説明してほしい。**
- A6. 過去に販売した変額年金が、市場のボラティリティが商品の設計段階で想定していたものから乖離し、危険保険料でカバーできない範囲にまで拡大して収益性が低下しているのに対して、定額年金は、危険保険料を高く設定しているわけではないことから相対的に収益性は高くないが、安定的に収益を上げることができる。加えて、定額年金は、デュレーション・ミスマッチのリスクを取っていないため、将来的にも安定的に利益を挙げられる。
- Q7. 変額年金市場から撤退する保険会社も出ているなか、第一フロンティア生命は、体力の範囲内で貯蓄性事業を継続し、市場環境や個人年金市場が改善した際に果実を得るという戦略を取っているという理解でよいか？**
- A7. 変額年金市場への商品投入時期、商品性などの違いから、第一フロンティア生命は、他社と比較して変額年金に係る損失が少なく済んでいると認識しているが、2010 年 3 月期に販売した変額年金約 8,000 億円が収益面で変動要因となっているのは事実である。この変動をコントロールしつつ、定額年金の品揃え拡大などを含め預かり資産を拡大させていくことで窓販市場で残存者利益を享受できると考えている。

<TAL>

Q8. TALの2013年3月期業績予想は保守的に見えるが、今後のビジネスプランについて教えて欲しい。

A8. 今期のTALのトップラインについては、引き続き成長を見込んでいる。減益を見込んでいるのは、TALが国際会計基準を採用しており、前期においては金利低下により利益が嵩上げされていたのが剥落する影響。金利の影響を除くと、若干の増益を見込んでいる。競合環境は楽な状況ではないが、保障分野で売上を伸ばす計画である。

<2013年3月期業績予想>

Q9. 今年度の第一生命単体の経常収益が減収となる要因を教えてください。

A9. 経常収益の約4,100億円の減収予想のうち、保険料等収入で1,900億円弱を見込んでおり、その大半が一時払終身保険の減収である。当社の営業職員チャネルは、一般的な銀行窓販チャネルと異なり、収益性の高い第三分野や死亡保障に加えて、お客さまのニーズにそって貯蓄性商品もご提供していくというスタンスを採っている。そのようなスタンスの下、低金利継続という前提もあり、今期の一時払終身保険の販売減少を見込んでいる。

また、資産運用収益で1,400～1,500億円の減収を予想しており、これは前年度に比べ売却損等の運用費用が減少する予想に連動して売却益も減少する予想としているため、損益的にはニュートラル。

残り600～700億円が支払備金戻入の減少で、これは震災関係での減少や損益的にはほぼニュートラルな大口の団体契約に係る減少である。

保険料等収入の減少見込みである1,900億円の大半は収益性が相対的に高くない貯蓄性商品であることから、利益に与える影響は数十億円程度と、その他の分野でカバーできる範囲であることをご理解いただきたい。

Q10. 今年度の第一生命単体の基礎利益が約300億円の減益になると見込んでいるが、減益要因を教えてください。

A10. まず、震災に伴う支払備金の一時的な戻り益を12年3月期に約140億円計上したが、これが今期は計上しないことから減少要因となる。その他を利源別に見ると、逆ざやは若干改善する見込みだが、保険関係損益が140～150億円悪化する予想としている。

Q11. 第一生命単体の新契約年換算保険料は昨年度は前年比横ばいだったが、今年度の見通しを教えてください。

A11. 第一生命単体の新契約年換算保険料は、前期比で若干減少する見込み。主な要因は一時払い終身の販売減少であり、成長分野である第三分野商品の販売は増加を見込んでいる。一方、第一フロンティア生命の新契約年換算保険料は増加し、2社合算の新契約年換算保険料は増加を見込んでいる。

Q12. 経常利益 1,380 億円および当期純利益 250 億円という今年度業績予想に関して、その間の項目である契約者配当準備金繰入額、価格変動準備金繰入額、その他特別損失の見通しについて教えて欲しい。

A12. 契約者配当準備金繰入額は、前期よりは若干増加すると想定している。個人保険・団体保険の配当還元率は前期と同程度の前提としているが、団体年金について運用の改善を前提としているためである。価格変動準備金繰入額は 140 億円を見込んでいる。その他の特別損失については、昨年度は大型の営業用不動産売却に伴う損失が大きかったが、今年度はそういった特殊事例はない見込み。法人税は、昨年度の法人税減税による特殊要因がなくなる。

Q13. 今年度の逆ざや及びキャピタル損益の見込みを教えて欲しい。

A13. 逆ざやについては、昨年度の約 900 億円から 800 億円後半へ若干の改善を見込んでいる。キャピタル損益については、昨年度から改善しネットでプラスを見込んでいる。昨年度、ユーロ建の外債でロスカットを進めバランスシートの改善を図ったこともあり、運用環境が大きく悪化しなければ今年度は構造的に大きなロスはないと考えている。

Q14. 昨年度は危険準備金を 790 億円取り崩したが、今年度の業績予想において前提としている繰入額を教えて欲しい。昨年度まで 2 期連続で取り崩した関係で、多めに繰り入れる予定はあるのか。

A14. 今年度の繰入額は、予算上は例年通り 200 億円弱の前提としている。一方、今年度は昨年度よりも追加責任準備金をより多く積み増す予定。具体的な繰入額は前期に比べ約 400 億円増加し、1,400 億円台後半となる見込み。この影響で、ボトムラインの回復がやや鈍いように見られるかもしれない。

Q15. 2014 年 3 月期の追加責任準備金の繰入予定額はいくらか？

A15. 2014 年 3 月期は 1,100 億円程度を見込んでいる。

(注) 上記内容については、理解し易いように、部分的に加筆・修正しています。

【免責事項】

本資料の作成にあたり、第一生命保険株式会社(以下「当社」という。)は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本資料およびその記載内容について、当社の書面による

事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限らず、「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現が含まれます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。